



平成二十六年七月 創刊号

© 2014 雅友会

響きは十方に！

〜 発刊にあたり〜

鹿児島教区雅友会 会長

東隅組正心寺 島見教信

【鹿児島教区雅友会】は、声明や作法、雅楽を専門的に行う僧侶で結成され、現在教区内に五十二名が在籍し日々研鑽に励んでおります。

昨年は鹿児島教区・鹿児島別院親鸞聖人七五〇回大遠忌法要が勤修された年でありました。私ども雅友会は、この御法要に向けて月例の練習会や特別講師を招いての研修会等を開催し、練習を積み重ねまして御法要を迎えさせていただきました。御門主さま新門さま御導師のもと、雅楽の荘厳な音色と、お勤めの朗々たる声がお堂いっぱい響き渡りました時は、大変感慨深く慶びが込み上げてきた感覚を今でもはつきり覚えております。

あの御法要で会員方もあらためて雅楽を奏する慶びと楽しさを味わったと思います。この気持ちを保持しながら雅

友会もさらに精進し、また新たな活動も展開していきたいと考えております。

現在雅友会では、もっと多くの方に雅楽の音色にふれてもらいたいという願いのもと、学校訪問や各種イベントでの演奏活動を行っております。雅楽は仏教音楽であると同時に、日本の伝統文化でもあります。この素晴らしい音色が宗門内に納まることは勿体ないような気がします。もっと対外的にも視野を向け、様々な楽器とコラボレーションを含め、雅楽を広めていく活動をしていきたいと考えております。そのような演奏活動をすることで、多くの方が仏法にふれる機縁となっていければ、こんなに嬉しいことはありません。

この度、雅友会では教区各寺の御法要や演奏活動等、皆さまにお知らせすべく、雅友会会報を発刊することとなりました。お茶を飲みながらも御清覧いただけると大変有り難く思います。今後とも雅友会にご支援ご協力どうぞよろしくお願いいたします。



坊津学園にて

雅楽&ハープ鑑賞会

平成二十六年二月十四日、南さつま市立坊津学園において「雅楽&ハープ鑑賞会」を開催いたしました。坊津学園は小・中一貫校であり、全校生徒約一六〇名、保護者並びに地域の方々約三〇名の前で演奏をさせていただきました。

今回は雅友会から九名、特別ゲストとして鹿児島市在住のハープ奏者・野元奈帆子さんを迎え、雅楽演奏と雅楽についての説明、野元さんによるハープ演奏とハープについての説明、雅楽とハープの共演による演奏四曲、楽器の体験コーナーという内容で、八〇分程の時間で行いました。

雅友会では十年程前から学校を中心にこのような活動を続けており、雅楽以外の楽器との共演は今回が初めてでありましたが、雅楽とハープの音色を子ども達も楽しんでくれたようです。

ここで一部ではありますが、後日学校からいただいた子どもたちの感想を紹介したいと思います。

「今回雅楽を聞いて、とてもリズムが良く、音が大きく迫力があってすごいなあと思いました」
「ハープと一緒に「ビリーブ」が歌え



とてもうれしかった」

「雅楽というと、難しく、近よりがたいでしたが、今日でそのイメージは大きく変わりました。とてもかっこ良かったです」

「ハープと笙を体験しましたが、笙はすつても吹いても音が出るし、みよーんという音がとても好きになりました。ハープはとてもきれいな音がしてプロの気分になりました」

「ハープと雅楽とのコラボなんてできるのかと思っていただけ、きれいに合っていて、音楽も国なんて関係ないんだなと思いました」

「雅楽とハープのコラボは想像以上にきれいで、ハープにつつまれているような心地よさがありました」、などなど

私たち雅友会も今回のハープと出会いを通して、新たな雅楽の魅力に気付かされました。

互いの音をよく聞き合い、尊敬し合っていていくところに、お互いの魅力やすばらしさがあらためて感じられてくると思います。子ども達のこれからの人生が、そのようなすばらしい人生であって欲しい・・・、そんな願いを持ってこうして演奏をさせていただいております。

昨年引き続き

東北にて雅楽演奏会

三月十日、東北は宮城県名取市（仙台空港近く）にありますコミュニティサロンにて、雅楽演奏会を開きました。東日本大震災で被災された方々に声を掛けし、仮設住宅にお住まいの方、民

間借上げ住宅にお住まいの方、合わせて二十三名の方にお集まりいただきました。雅楽についてまずお話させていただきました。古典の雅楽、現代音楽をアレンジした曲を聞いていただきました。また、演奏後には一緒にお茶を飲みながら、実際に楽器を手にとっていただいたり、感想を聞かせていただいたり、質問にお答え

するなど、楽しい時間を過ごすことができました。

参加者からは、「雅楽を生で初めて聞いた」、「迫力があり、心に響いた」、「癒やされた」などのお声を頂きました。

当日の参加者に後日お会いした際には、「来られなかった友達にも聞かせてあげたい」、「またぜひ演奏会を開いてほしい」等々のありがたいお声を聞かせていただきました。

コミュニティサロンを管理している方々からも、「参加者の約半分が、今までこのサロンに来られたことのない方々でした。民間借上げ住宅にお住まいの方は、こちらからイベントの案内をしてもなかなか来てくださらないのです。仮設住宅とは違って、隣近所の付き合いや被災者同士のつながりがあまりないのですよね。それなのに、こんなにたくさんの方々が集まったことに驚いています。」と、とても嬉しいお言葉を頂きました。

また、三月十一日には東北教区宮城組専能寺での追悼法要に結衆、奏楽員として出仕させていただきました。

機会を設けて被災された方々のところへ、雅楽の音色をお届けしたいと考えております。



①演奏する雅友会員 ②聞き入る参加者 ③雅楽の説明をする山内氏
④当日の参加者 ⑤質問されている参加者 ⑥鳳笙の説明に興味津々の参加者 ⑦譜面を見てほか〜ん。

山内大宣先生

「名誉知堂」の栄に

去る、平成二十六年二月十四日、京都本願寺（西本願寺）におきまして、雅友会会員 山内大宣先生（東隅組 輪光寺住職）の「名誉知堂」の任免式が執り行われました。

「名誉知堂」とは、本願寺における役職名の一つで、その名の通りお御堂（本山の御影堂・阿弥陀堂の両堂）の法要儀式に従事し、その知識・勤行の技量が秀でたものを「知堂」と呼びます。その中で特に本願寺に功績のある方を「名誉知堂」と呼称し、総局（西本願寺の中樞）が指定する法要式務に出仕するものと



されています。

現在、西本願寺のお寺は、全国に約一万ヶ寺あり、僧侶の数はおよそ三万人を超えるといわれています。その中で「名誉知堂」という役職を拝命されている方は、わずか二十四名で、しかも、鹿児島教区より任免されたのは、山内大宣先生が初めてのことだそうです。これは先生の長年にわたる本山本願寺並びに鹿児島教区・鹿児島別院に対する多大な貢献をなされたことへの顕れでありましよう。

私たちは、このような偉大な先輩を雅友会会員に在籍いただいていることを誇りに思い、先生の跡を慕いながら、今後も日々精進して参りたいと思います。この度は本当におめでとうございませう。

舞 楽

雅友会では会員相互の技術向上や研鑽の為に活動の一環に舞楽を取り入れ、各種慶讃法要や記念大会等での舞楽公演を行ってきました。舞楽とは舞いを伴った雅楽です。舞手や装束、舞台等の関係で事前の準備は大変ですが、雅楽の



持つ華やかさを十分に感じて頂けます。指宿組光雲寺での落慶法要や東俣出張所での大遠忌法要では子ども達が「迦陵頻」を舞い、平成二十四年の如月忌では鹿児島市民文化ホールで会員自ら設計、設置した舞台で「陵王」を舞うなど、舞楽を多くの人に知ってもらおうとその活動にも力が入ります。

今後も各種行事や法要での舞楽公演を積極的に行っていきたいと思っております。

★雅友会へのお問い合わせ

鹿児島教区教務所内 雅友会事務局

099-222-0051 (担当 井川)

雅友会ホームページ (鹿児島別院ホームページ内)

<http://www.hongwanji-kagoshima.or.jp/gayukai>